

# 15年戦争期の日本の医学犯罪の証拠 —医学研究倫理教育の教材として

## 土屋 貴志 (大阪市立大学大学院文学研究科)

構成：吉田孝 (東京大学医学部 研究)

近年、インターネット上に「七三一部隊等の人体実験はすべて嘘、作り話」というデマが流布しており、学生や生徒、聴衆などの間に、このデマを信じる人が増えてきている。そうした人は、日本の医学犯罪を取り上げると「証拠は何か」と問うてくる。

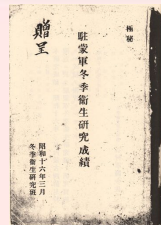
ところが、多くの授業者や講演者は、日本の医学犯罪について詳しく研究していないので、質問者の疑問に答えて証拠を示すことができない。

そこで、七三一部隊等、15年戦争期の日本の医学犯罪に関し、高等教育(大学院、大学等)および中等教育(高校等)の授業、ないし一般市民向けの社会教育(講演、講座等)で話す際に、動かぬ証拠としてまず示すべき資料を精選した。

### 流行性出血熱の病原体確定実験

北里研究所から七三一部隊へ赴いた笠原四郎は、七三一部隊長を務めた北野政次らと共著で、流行性出血熱の病原体を確定したとの論文を1944年に発表した。  
(笠原ほか『日本病理学会誌』34(1-2): 3-5, 1944)  
しかし、文中の「猿」とは、実は人間のことである。サルは平熱は人間よりも高く、39.4℃は猿にとっては平熱である。しかも笠原らは別の論文で、猿の場合は著明な流行性出血熱腎と発熱の両方を示すことはないと言っている。そこで、笠原らが人間を実験材料とし、しかも生体解剖したことがわかる。

1985年、笠原はイギリスのテレビ番組のインタビューに応じ、人体実験を行ったことを認めている。  
「私は、私のしたことを非常に心苦しく思います。私は間違ったことをやっと思ひます。わずかに数回のことではありましたが、人体実験の結果スパイが死んでしまった時……私は非常に悲しかった。それについても私は石井部隊の講堂で供養祭をやりました」  
(Williams & Wallace, Unit 731: The Japanese Army's Secret of Secrets. London: Hodder & Stoughton, 1989, p.40. 西里編訳 2003, p.38)



### 冬季衛生研究

大同陸軍病院の谷村一治軍医少佐は「冬季衛生研究班」を組織し、1941年1月31日から2月11日にかけて内蒙古で、凍傷、テントでの手術、止血、輸血などについて研究する野外演習を行った。  
写真や図版を含む400頁近い詳細な報告書が1970年代に古書店で発見され、復刻出版されている。  
(冬季衛生研究班編『陸軍軍冬季衛生研究成績』1941; 復刻版・現代書館、1995)

彼らは8人の中国人を「生體[体]」すなわち実験材料として「携行」している。実験材料とされた8人の中国人はさまざまな実験や手術の対象となり、最後には生体解剖で殺されるか銃殺された。

携行品目録。左側の欄に「生體」として8人の中国人の姓名と年齢、番号が書かれている



天幕建設中 / 生體観視  
(冬季衛生研究班編『陸軍軍冬季衛生研究成績』1941年2月、復刻版、現代書館、1995年)

### 生物兵器開発実験



七三一部隊のデータを手に入れた米軍の報告書には、日本の研究者が確かめた、炭疽、ペスト、チフス、パラチフスAおよびB、赤痢、コレラ、鼻疽に関する「MDSO」(被験者の50%に感染を引き起こす病原体の最小量)が記載されている。これらのデータは、人間に実際に投与してみなければ得られない。  
例えば米軍調査官N・H・フェルは、炭疽菌の噴霧実験に関して次のように報告している。「典型的な実験では、10立方メートルのガラス室に4人の人間の被験者を入れ、1mgm/cc 溶液300ccを、ふっふうの消毒用の噴霧器で噴霧した。粒子のサイズの測定はしなかったが、4人のうち2人が皮膚に病巣ができ、そのためついに炭疽病になった」

フェルは炭疽菌爆弾の実験についても記している。「ほとんどのばい菌は杭に縛りつけられ、ヘルメットとよわい保護されていた。地上で爆発するものあるいは飛行機から投下された時限起爆装置のついたものなど、各種の爆弾が実験された。」

「10人のうち6人の血液中に菌の存在が確認され、このうちの4人は呼吸器からの感染と考えられた。この4人全員が死亡した。だが、これら4人は、いっせいに爆発した9個の爆弾との至近距離はわずか25メートルであった。」

フェルは同じ報告書でペスト生物兵器の開発について書く。

#### (e) 噴霧実験

結果としてこの方法は、部屋の中に被験者を閉じこめて行っても、また低い高度で飛行機から菌を噴霧した菌にさらしても、ともに極めて効果的だった。各種実験に使われた被験者の30から100パーセントが感染し、死亡率は少なくとも60パーセントだった。」

しかしながら「ペスト」菌を液状で、あるいは乾燥することで安定化することはできなかった。そこで七三一部隊が開発されたのが、生菌をそのまま撒くのではなく、媒介動物であるノミをペスト菌で汚染し、緩衝物にまぶしたり陶器製の爆弾に入れて撒く方法だった。

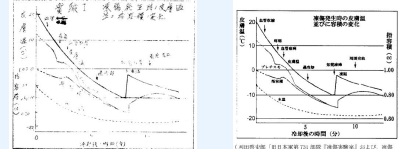
「何キログラムものふっふうのノミ(1グラムで約3000匹)の生産と、それに合わせた感染の方法が開発された。このノミの研究は詳細に記述されており、優れた研究であることを示している。

ペストノミは最良の条件下では約30日間生存し、その間感染力があることが判明した。また、1人にノミ1匹が刺せばふっふう感染することも判明した。1平方メートルあたりノミが20匹いる部屋で被験者を自由に動かしたところ、10人中6人が感染し、うち4人が死亡した。」

(以上 Norbert H. Fell, Brief Summary of New Information About Japanese B. W. Activities, 20 June 1947. 「フェル・レポート」松村高夫編『論争・七三一部隊』増補版、晩聲社、1997、289-293頁、訳文一部改変した)



吉村は講演の中で、指に凍結が起こる際の皮膚温と指の容積の変化を測定したグラフを示している。(手書きで読みにくいため、刈田啓史郎氏による清書を右に並べて示す)

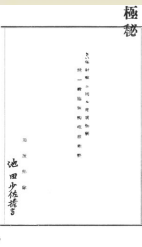


吉村は、戦後に同様の研究成果を英語論文にして発表し直した。その中に、生後3日の新生児にも実験した結果を示している。(左)

しかし、その英語論文には、被験者の指を凍結させていたことを示すグラフは載せていない。

(The Japanese Journal of Physiology Vol.2 (August 1951-July 1952), pp.177-178)

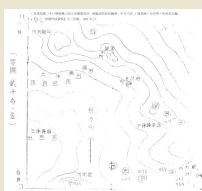
### 化学兵器開発実験



加茂部隊「毒い弾射撃」による皮膚傷害一般臨床的状況観察  
(田中明・松村高夫編『七三一部隊作戦資料』不二出版、1991、pp.142)

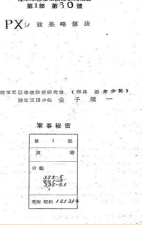
戦後発見された、七三一部隊における化学兵器実験に関する報告書。1940年9月「毒い弾」(イペリット[マスタード]ガス弾)の射撃実験が行われたことを記述している。

実験台にされた人たちは、服装や装備などの条件を揃えられた上で地域内の野砲偽掩体や壕や休息所や観測所などに配置され、イペリットガスにさらされた。



報告書本文の一部と、実験場における被験者の配置を示した図

### 生物兵器の使用



七三一部隊の金子順一軍医少佐が1943年に、石井機関の中核である陸軍軍医学校防疫研究室の紀要に書いた論文が、2011年国立国会図書館で発見された。これは金子が1944年東京大学に博士学位請求論文として提出した論文集の一部である。  
当論文で金子はペストノミ(「PX」)の兵器としての効果を計算する方法について論じており、七三一部隊が1940年6月から1942年8月までに行ったペスト菌兵器による「攻撃」の効果を一覽表にまとめている。

日	時	場所	ノミ	被験者	結果
1940.6.1	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.2	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.3	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.4	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.5	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.6	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.7	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.8	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.9	15:00	東京	100	1	死亡
1940.6.10	15:00	東京	100	1	死亡

(金子順一「PX/効果算法」『陸軍軍医学校防疫研究報告』第一部第60号、1943年12月14日交付)

### 被験者調達システム

関東憲兵隊「特移投」文書(1941-44年)  
戦後、吉林省・長春の関東憲兵隊司令部跡地から、焼却しきれずに地下に埋めた、実験材料にされた人々の七三一部隊への移送(「特移投」)について記した関東憲兵隊の文書が発掘された。その写真版として以下のものが出版されている。  
■黒龍江省档案馆・黒龍江省人民対外友好協会・ABC企画委員会編『「七三一部隊」罪行鉄証』(中国:黒龍江省人民出版社、2001年)  
■吉林省档案馆・日中近現代史研究会・ABC企画委員会編『吉林省档案馆所蔵「七三一部隊」罪行鉄証』(中国:吉林人民出版社、2003年)



戦後、中国で発見された、日本軍の関東憲兵隊「特移投」書類。なお、文中の「蘇謀」とは、ソ連のスパイのこと。

### 映像資料

前編(1992年4月13日放送)

石井四郎と米軍との取引、およびソ連の尋問をめぐる米ソの駆け引きを、当事者の証言を中心に描く

★冒頭の15分が炭疽菌レポートを含め七三一部隊の概要がまとめられている

後編(1992年4月14日放送)

ハバロフスク裁判の経過を、公開された一次資料や当事者の証言をもとに描く